

平成28年度 授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	映像機器学及び演習 (Image Media Technology and Exercises.)	授業コード	P140201
担当教員名	小島 康史	科目ナンバリングコード	P140200
配当学年	2	開講期	前期
必修・選択区分	コース必修	単位数	3
履修上の注意または履修条件	「映像企画・取材学」の単位を修得していることを履修条件とします。		
受講心得	娯楽作品ではなく主にドキュメンタリー作品を中心に、テレビ、ビデオ、DVD、映画などの身近な映像メディアや映像作品を視聴し、それぞれの作品に設定されている「対象」と「目的」を考えながら見る習慣を付けてください。また、視聴を通して印象に残った構成やカメラアングルなどをメモしておきましょう。		
教科書	第1回講義でオリジナル講義資料(学修ノート)を配布します。 学修ノートは第16週に回収します。		
参考文献及び指定図書	<p>情報映像学入門 佐々木成明著 オーム社 よくわかる映像コンテンツ制作入門 映像情報メディア学会編 オーム社 映像制作入門 鈴木誠一郎、喜多千草著 ナカニシヤ出版 図解「実践」映像ライティング 桜井雅章著 玄光社 映像カメラマンのための構図完全マスター 益子広司著 玄光社 本物の表現力を育てる映像撮影技術 益子広司著 玄光社 映像制作のためのサウンド収録&編集テクニック 岡野肇、大須賀淳著 玄光社 映像編集の教科書 井上秀明著 玄光社 映像編集の秘訣1 (協)日本映画・テレビ編集協会編 映像編集の秘訣2 (協)日本映画・テレビ編集協会編 デジタル映像制作ガイドブック ワークスコーポレーション めざせ映像クリエイター コマーシャルフォト責任編集 玄光社 映像クリエイター実践講座 コマーシャルフォト責任編集 玄光社 映像制作実践講座:プロの現場の実例で学ぶ 水城田志郎著 玄光社 一人でもできる映画の撮り方 西村雄一郎著 洋泉社</p>		
関連科目	情報デザイン入門、映像企画・取材学、映像構成・演出学及び演習、取材実践・編集学及び演習、情報デザイン総合演習		

授業の目的	<p>ビデオカメラやデジタルカメラ、スマートフォンの高機能化によって、だれでも手軽に動画制作ができるようになり、多くの人々が動画制作を楽しんでいます。しかし、ネット上に公開されている完成作品を見るかぎり作品の質にはバラツキが多く、残念ながらほとんどの作品は自己満足に終わっています。</p> <p>コンテンツ・クリエイターを目指す学生諸君が制作する映像は、それらの作品群とは異なり、あくまでもコミュニケーションツールです。つまり、「誰かに何かを誤解させることなく伝える」という機能が求められています。</p> <p>本学の映像制作教育プログラムが諸君に求めているものは、情報を正確に、しかも効果的に伝えるためのツールとして、映像を使いこなしていくための知識と能力を身につけることです。</p> <p>そして、諸君が制作する映像作品は、表現に芸術的なセンスが求められますが、それよりも撮影素材やテーマ、視聴対象に対する深い理解が重視されています。さらに、ほかの表現メディアと組み合わせることによって、視聴効果を高めているものである必要があります。</p> <p>そのためには、映像がメディアとしてどのような特性をもち、どのように構成されているのか、また、どのような効果が発揮できるのかを知ることが欠かせません。</p> <p>本科目では「映像企画・取材学」で修得したシナリオ構成力をベースとして、描きたいと考えている映像世界実現するための、撮影機器および撮影方法、ライティングに関する知識と技術を、チームでの映像制作実践を通して身につけます。さらに、フィールドカメラとノンリニア編集システムを使用して、チームでの作品制作を通して総合的な映像表現能力の修得を目指します。さらに、本学スタジオでの実践演習を通して、中継機器やスイッチング、ミキシングに関する基礎を学びます。</p>
授業の概要	<p>2コマ連続で座学と演習を行います。具体的には、チームを単位として座学で学んだ内容を、ショートムービーの撮影実践を通して、1つずつ確認しながら実践することによって、知識と技術を身につけていきます。このプロセスでは、簡単な企画書・シナリオの作成、フィールドカメラによる撮影やノンリニア編集などを行います。</p> <p>各チームは毎回演習を通して制作した映像について、視聴対象、作品全体を通してのねらい、カット構成を決定した理由、それぞれのカットの意味やねらい、撮影法の工夫などについてプレゼンテーションを行います。</p> <p>このプレゼンテーションを素材にチーム間で討論することによって、反省や学び、気づきのきっかけとし、次の実践に活かします。</p>

○授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
<p>第1週：ビデオ撮影の概要</p> <p>第1週目は2コマ連続で、以下のついで座学のみを行う。 コンパクトなハイビジョンビデオカメラ各部の名称、メモリのカメラへの装填、カメラの三脚への装着、撮影の仕方、撮影画角の知識、フレームサイズ、画角、カメラアングル、アイリスの手動調整、カメラワークと照明法などに関する撮影の知識、上手と下手、イマジナリーラインなど画面構成上のルール。 さらに第2週から制作するショートムービーの企画書とシナリオの作成を行う。 ショートムービーのテーマは、学内施設の紹介として撮影実践演習を行うが、この段階では編集を行わず1カット目から順番に再生することで、伝えたい情報が提供できるようにカット構成を考えることを条件とする。</p>	<p>第1週目に配布する学修ノートの精読と専門用語の意味の確認。 実践内容や気づいたこと、反省等を記入する。</p>
<p>第2週：ショートムービー制作演習1</p> <p>2コマ連続で学内施設紹介のショートムービー制作演習を行う。</p>	<p>第1週目に配布する学修ノートの精読と専門用語の意味の確認。 実践内容や気づいたこと、準備状況、反省等を記入する。</p>
<p>第3週：ショートムービー制作演習2</p> <p>座学では、各チームが第2週に制作したショートムービーについて、視聴対象、作品全体を通してのねらい、カット構成を決定した理由、それぞれのカットの意味やねらい、撮影法の工夫などについてプレゼンテーションを行う。ショートムービーの視聴後、チームが行ったプレゼンテーションの内容についての意見交換を行い、最後に教員が作品の講評とともに、問題点や改善点を指摘する。 演習では、第2週とは役割を変えて同じ学内施設の紹介ショートムービーの制作実践を行う。</p>	<p>第1週目に配布する学修ノートの精読と専門用語の意味の確認。 プレゼンテーション時に指摘を受けた箇所の確認と修正案の作成。 実践内容や気づいたこと、準備状況、反省等を記入する。</p>
<p>第4週：ショートムービー制作演習3</p> <p>座学では、各チームが第3週に制作したショートムービーについて、視聴対象、作品全体を通してのねらい、カット構成を決定した理由、それぞれのカットの意味やねらい、撮影法の工夫などについてプレゼンテーションを行う。ショートムービーの視聴後、チームが行ったプレゼンテーションの内容についての意見交換を行い、最後に教員が作品の講評とともに、問題点や改善点を指摘する。 演習では、第3週とは役割を変えて同じ学内施設の紹介ショートムービーの制作実践を行う。</p>	<p>第1週目に配布する学修ノートの精読と専門用語の意味の確認。 プレゼンテーション時に指摘を受けた箇所の確認と修正案の作成。</p>
<p>第5週：ショートムービー制作演習4</p> <p>座学では、各チームが第4週に制作したショートムービーについて、視聴対象、作品全体を通してのねらい、カット構成を決定した理由、それぞれのカットの意味やねらい、撮影法の工夫などについてプレゼンテーションを行う。ショートムービーの視聴後、チームが行ったプレゼンテーションの内容についての意見交換を行い、最後に教員が作品の講評とともに、問題点や改善点を指摘する。 演習では、第4週とは役割を変えて同じ学内施設の紹介ショートムービーの制作実践を行う。</p>	<p>第1週目に配布する学修ノートの精読と専門用語の意味の確認。 プレゼンテーション時に指摘を受けた箇所の確認と修正案の作成。 実践内容や気づいたこと、準備状況、反省等を記入する。</p>
<p>第6週：ショートムービー制作演習5</p> <p>座学では、各チームが第4週に制作したショートムービーについて、視聴対象、作品全体を通してのねらい、カット構成を決定した理由、それぞれのカットの意味やねらい、撮影法の工夫などについてプレゼンテーションを行う。ショートムービーの視聴後、チームが行ったプレゼンテーションの内容についての意見交換を行い、最後に教員が作品の講評とともに、問題点や改善点を指摘する。 演習では、第4週とは役割を変えて同じ学内施設の紹介ショートムービーの制作実践を行う。</p>	<p>第1週目に配布する学修ノートの精読と専門用語の意味の確認。 プレゼンテーション時に指摘を受けた箇所の確認と修正案の作成。 実践内容や気づいたこと、準備状況、反省等を記入する。</p>
<p>第7週：ショートムービー制作演習6</p>	

<p>座学では、各チームが第5週に制作したショートムービーについて、視聴対象、作品全体を通してのねらい、カット構成を決定した理由、それぞれのカットの意味やねらい、撮影法の工夫などについてプレゼンテーションを行う。ショートムービーの視聴後、チームが行ったプレゼンテーションの内容についての意見交換を行い、最後に教員が作品の講評とともに、問題点や改善点を指摘する。</p> <p>演習では、第5週とは役割を変えて同じ学内施設の紹介ショートムービーの制作実践を行う。</p>	<p>第1週目に配布する学修ノートの精読と専門用語の意味の確認。</p> <p>プレゼンテーション時に指摘を受けた箇所の確認と修正案の作成。</p> <p>実践内容や気づいたこと、準備状況、反省等を記入する。</p>
<p>第8週：ショートムービー講評</p> <p>2コマ連続で、各チームが制作したそれぞれ6本のショートムービーについて、表現上の変遷を確認するとともに、視聴対象、作品全体を通してのねらい、カット構成を決定した理由、それぞれのカットの意味やねらい、撮影法の工夫などについて1つずつ講評を行い、ショートムービー制作演習の締めくくりとする。</p>	<p>第1週目に配布する学修ノートの精読と専門用語の意味の確認。</p> <p>実践内容や気づいたこと、準備状況、反省等を記入する。</p>
<p>第9週：オープンスタジオ機材の解説</p> <p>オープンスタジオおよび、サブスタジオの収録機器それぞれの機能や使用法を説明し、本学科での映像表現のベースとなるスタジオ機材に関する知識と機器の取扱に関する技術を、チーム単位で実際に機器を操作することを通して身につける。</p>	<p>第1週目に配布する学修ノートの精読と専門用語の意味の確認。</p> <p>実践内容や気づいたこと、準備状況、反省等を記入する。</p>
<p>第10週：オープンスタジオ機材の使用法1</p> <p>座学では、配布教材にしたがってスタジオ機材の立ち上げとクロマキー合成、撮影サイズ、カメラの切り替え、照明などについて解説する。</p> <p>次いでテキストに従って、チームごとにクロマキー合成の演習を行う。各チームの演習後、機器の取扱等についてチーム間で意見交換を行う。さらに問題点等がある場合は、教員が指摘し改善策に関して討論を行う。</p>	<p>第1週目に配布する学修ノートの精読と専門用語の意味の確認。</p> <p>実践内容や気づいたこと、準備状況、反省等を記入する。</p>
<p>第11週：オープンスタジオ機材の使用法2</p> <p>各チームで作成した絵コンテにしたがってクロマキー撮影演習を行う。</p>	<p>第1週目に配布する学修ノートの精読と専門用語の意味の確認。</p> <p>実践内容や気づいたこと、準備状況、反省等を記入する。</p>
<p>第12週：オープンスタジオ機材の使用法3</p> <p>座学では、配布教材にしたがってハイビジョン中継システムの使用法および、スタジオ収録時のスイッチングの基本ルールについて解説する。</p> <p>次いでテキストに従って、チームごとにハイビジョン中継システムの演習を行う。各チームの演習後、機器の取扱等についてチーム間で意見交換を行う。さらに問題点等がある場合は、教員が指摘し改善策に関して討論を行う。</p>	<p>第1週目に配布する学修ノートの精読と専門用語の意味の確認。</p> <p>実践内容や気づいたこと、準備状況、反省等を記入する。</p>
<p>第13週：大型ハイビジョンカメラを用いたショートムービー制作実習1</p> <p>座学では、配布資料にしたがって各種パラメーターの調整を含む大型ハイビジョンカメラの使い方を解説する。</p> <p>演習では、各チームそれぞれが紹介した学内施設をテーマに、大型ハイビジョンカメラを用いてショートムービー制作を行う。</p>	<p>第1週目に配布する学修ノートの精読と専門用語の意味の確認。</p> <p>実践内容や気づいたこと、準備状況、反省等を記入する。</p>
<p>第14週：大型ハイビジョンカメラを用いたショートムービー制作実習2</p> <p>座学では、配布資料にしたがって第13週に撮影したデータのノンリニア編集機への取り込み、映像編集、サウンドの収録、サウンド編集について解説する。</p> <p>演習では、各チームそれぞれが紹介した学内施設をテーマに、引き続き大型ハイビジョンカメラを用いてショートムービー制作を行う。</p>	<p>第1週目に配布する学修ノートの精読と専門用語の意味の確認。</p> <p>実践内容や気づいたこと、準備状況、反省等を記入する。</p>
<p>第15週：大型ハイビジョンカメラを用いたショートムービー制作実習3</p> <p>2コマ連続で、各チームそれぞれが紹介した学内施設をテーマにしたショートムービーの最終仕上げを行う。</p>	<p>第1週目に配布する学修ノートの精読と専門用語の意味の確認。</p> <p>実践内容や気づいたこと、準備状況、反省等を記入する。</p>

第16週：映像作品講評		学修ノートへの完成報告書の記入を行い提出する。
完成した各チームの映像作品を講評し、映像表現上のポイントに関する理解を深める。		
授業の運営方法	(1)授業の形式	「演習等形式」
	(2)複数担当の場合の方式	
	(3)アクティブ・ラーニング	「アクティブ・ラーニング科目」
地域志向科目	該当しない	
備考		

○単位を修得するために達成すべき到達目標	
【関心・意欲・態度】	学習内容や集積できた情報、知識を活用して、対象や目的に沿った映像(長さは5分前後)をスタジオ機材や撮影・編集システムを活用して制作できる。
【知識・理解】	学習内容や集積できた情報、知識を活用して、対象や目的に沿った映像(長さは5分前後)をスタジオ機材や撮影・編集システムを活用して制作できる。
【技能・表現・コミュニケーション】	学習内容や集積できた情報、知識を活用して、対象や目的に沿った映像(長さは5分前後)をスタジオ機材や撮影・編集システムを活用して制作できる。
【思考・判断・創造】	学習内容や集積できた情報、知識を活用して、対象や目的に沿った映像(長さは5分前後)をスタジオ機材や撮影・編集システムを活用して制作できる。

○成績評価基準(合計100点)			合計欄	100点
到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	期末試験・中間確認等(テスト)	レポート・作品等(提出物)	発表・その他(無形成果)	
【関心・意欲・態度】 ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。		20点		
【知識・理解】 ※「専門能力(知識の獲得)」を含む。		30点		
【技能・表現・コミュニケーション】 ※「専門能力(知識の活用)」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。		30点		
【思考・判断・創造】 ※「考え抜く力」を含む。		10点	10点	
(「人間力」について) ※以上の観点に、「こころの力」(自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力)と「職業能力」(職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力)を加えた能力が「人間力」です。				

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安	
成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安
レポート・作品等(提出物)	[Sレベル]単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。 [Aレベル]単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。 [Bレベル]単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。 [Cレベル]単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。
発表・その他(無形成果)	